

コンテンツ産業の発展に向けた NHKの取り組み

放送コンテンツの制作・流通の促進に関するWG(第5回)・資料

日本放送協会

2023/4/24

“開かれた制作体制”により産業振興に貢献

NHK

※BSプレミアム放送の受賞作品より



文化庁芸術祭 大賞

「忠臣蔵狂詩曲No.5 中村仲蔵 出世階段」
(2022年・第77回 テレビドラマ部門)

制作会社: オッティモ



ATP賞 最優秀賞

「魔改造の夜 トースター高跳び／ワンちゃん25m走」
(2021年 第37回情報・バラエティ部門)

制作会社: テレビマンユニオン

外部制作会社は、公共放送NHKを支える上での**欠かせないパートナー**

NHKは**番組制作会社との協業を通じて** 日本全体の**コンテンツ制作力向上に貢献**

衛星放送の発展とともに 外部制作事業者の活用を進めてきた

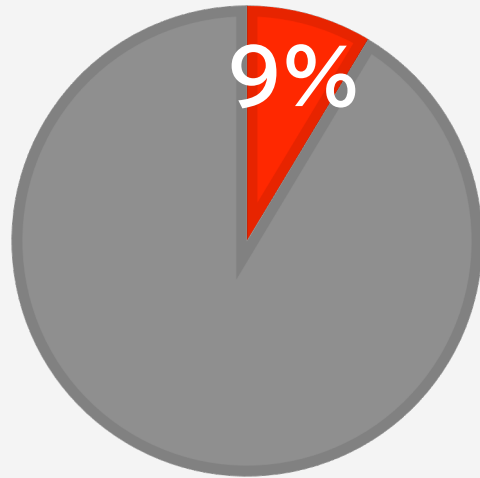
年	衛星放送の変遷	外部制作の状況
1984	BSアナログ試験放送開始 (BS1)	
1985	NHKエンタープライズ設立	ミニ番組等の委託が始まる
1986	BSアナログ試験放送開始 (BS2)	一般番組の委託が始まる
1989	BSアナログ本放送開始 (BS1・BS2)	
1994	ハイビジョン実用化試験放送開始	
2000	BSデジタル本放送開始 (BS1・BS2・BSHi)	
2004		番組著作権が外部制作会社とNHKの共有となる 委託区分を導入
2006		「企画競争」導入※外部制作会社への直接発注が可能に
2008		「外部事業者の企画・制作能力の活用」を明記 (NHKの「経営計画・2009～2011」)
		「数値目標」を提示 (NHKの「2011年以降のBSデジタル放送についての考え方」)
2010		基幹放送普及計画に「数値目標」が記載※BSP
2011	BSデジタル放送2波化 (BS1・BSP)	
2018	BS4K・BS8K本放送開始	

波別の外部制作 編成割合

衛星波を中心に外部制作事業者の活用が進む

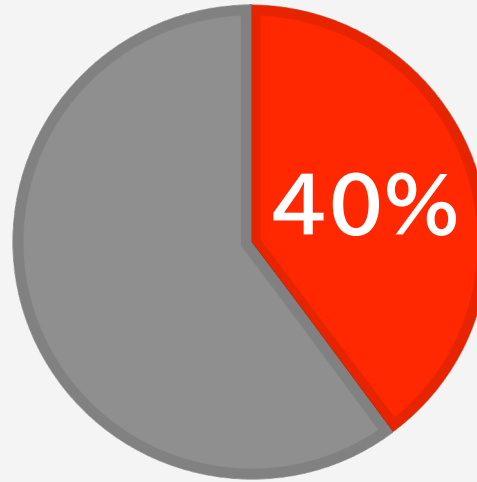
赤 = 外部事業者
(放送時間基準)

地上波

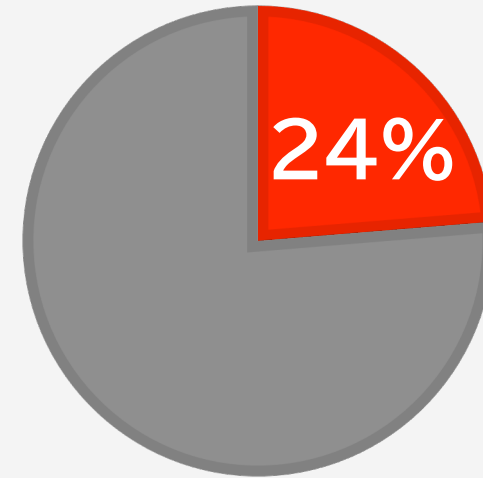


2K 衛星波

BS1・BSプレミアムの平均値



4K8K 衛星波



※2022年度上半期実績値

BSP

「基幹放送普及計画」において「外部事業者の活用」が明記
2種類の数値目標(外部制作比率)が設定

出典:「放送コンテンツの制作・流通の促進に関するWG」(第1回)総務省資料

概要

- ✓ 2006年の「通信・放送の在り方に関する懇談会」において、以下が提言された。
 - ① 日本のソフトパワーの強化を実現するため、放送事業者は、番組の外部調達や取引の在り方を見直し、外部調達の増大に努めることが期待される。
 - ② 特に、公共放送であるNHKは、番組制作の一定割合以上をNHKの子会社以外の外部から調達すべきである。
- ✓ これを受け、基幹放送普及計画において、BSプレミアムについては、**外部の事業者の企画・制作能力を放送番組に活用**することが求められている。

基幹放送普及計画（告示）抜粋

イ 衛星基幹放送

C A(A)の放送については、その周波数(右旋円偏波の電波に係るものに限る。)の1の範囲内において、次の(A)及び(B)に掲げる各1系統の放送を行うこと。

(A) 衛星基幹放送の広域性、経済性、大容量性及び高品質性を生かした情報の提供を行う総合放送 ←BS1

(B) **外部の事業者の企画・制作能力を放送番組に活用**し、過去の優れた文化の保存並びに新たな文化の育成及び普及を促進することを目的とする総合放送 ←BSプレミアム

D (略)

E C(B)の放送については、次の(A)及び(B)に掲げる事項に取り組むものとする。

A

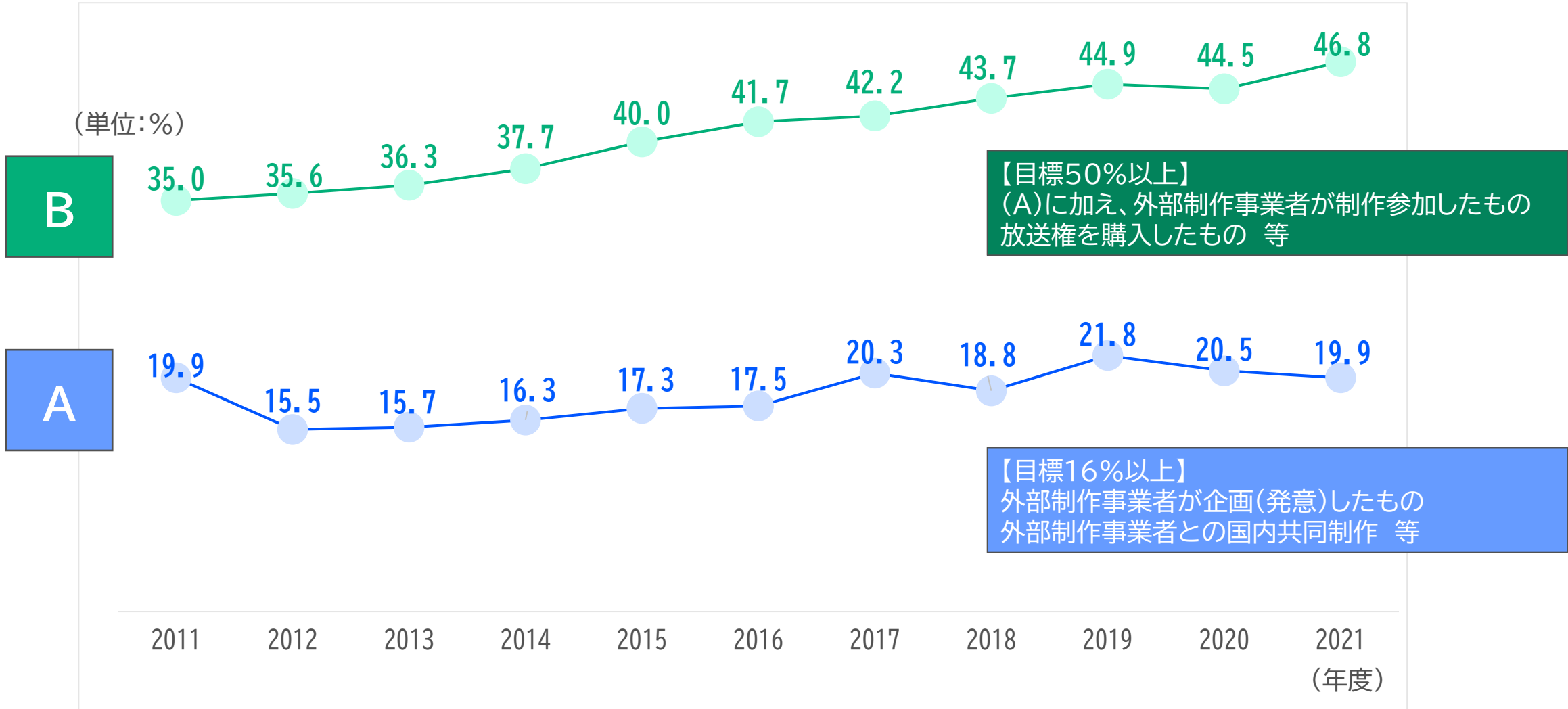
(A) 各年度の総放送時間のうち、**協会が外部制作事業者**(国内において放送番組の制作の事業を行う者(協会の子会社及び関連会社を除く。)をいう。以下同じ。)に制作を委託した**放送番組**(協会の子会社及び関連会社を介して制作を委託したものを含む。)及び**協会と外部制作事業者が共同で制作した放送番組の放送時間が占める割合が百分の十六以上**となるよう努めること。

B

(B) 各年度の総放送時間のうち、**協会が企画競争等に付して他に制作を委託した放送番組及びそれ以外の外部制作事業者が制作に参加した放送番組の放送時間が占める割合が百分の五十以上**となるよう努めること。

BSP 外部制作比率の実績

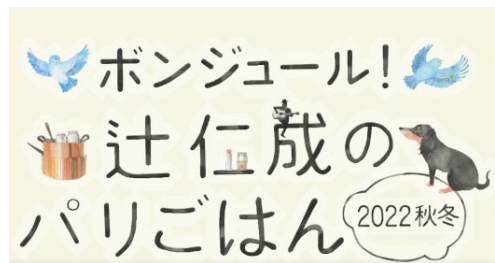
BSプレミアムは(A)(B)2種の努力目標に向かって 外部制作事業者の活用を進めている



コンテンツ産業への貢献の 取り組み

協業による多様性の創出

独創性 × 多様性 = 視聴者の満足度向上



各社との協業で制作するコンテンツ群が
衛星放送の多様性や豊かさを創出

外部の制作会社とNHKグループが切磋琢磨し
日本全体のコンテンツ制作力向上に貢献

透明性の確保



NHKホームページより

外部制作事業者のメリット

機会均等・競争関係の促進

制作者の制作力向上

放送後の多様な展開



「これを経費で落ちません！」



「ワタシってサバサバしてるから」



正月時代劇「いちげき」

178回の募集を行い
のべ8391社が参加し
399の企画を採択
(2006年～現在)

最新技術を活用した高付加価値化

国内に蓄積されたコンテンツの利活用を4Kリマスター技術により促進
 著作権収入や制作受注により業界全体の持続的な発展に貢献

※リマスターの仕組みについては資料末尾参照

➔ 高い付加価値の創出 ➔ 過去コンテンツの二次利用促進 ➔ 外部制作事業者への貢献



「タイムスコープハンター4Kリストア版」



「伝説のコンサート」シリーズ



「ウルトラセブン 4Kリマスター版」

コンテンツの主なジャンル

ドキュメンタリー	エンタメ(音楽等)
購入番組(海外名作)	映画
名作ドラマ	大河・朝ドラ



BS4Kのリマスターコンテンツ			
2021年度		2022年度	
放送分数	約909時間	放送分数	約1102時間
放送回数	1225回	放送回数	1475回

高品質コンテンツの流通促進に貢献

NHKグループのノウハウを生かし 多角的な流通を促進

海外への番組販売やコンクールへの出品



MIPCOMなど国際見本市への出展

国内の番組販売



CS・BS・CATV
機内上映などの番組販売
素材提供、DVD・CD化

外部プラットフォームへの展開

Amazon Prime Video、Abema TV
Disney+、Hulu、Netflix、Rチャンネル、FODなど

放送

キャラクター等の二次利用



キャラクター・出版物・イベント

オウンドメディアでの利用



高品質コンテンツの展開

著作権者への利益の適正な配分

業界の持続的な発展へ

NHKは制作会社の団体との対話の場を設け
良好で公正な関係の維持・発展に努めている

NHK



ATP

※(一社)全日本テレビ番組製作社連盟

定期協議を行い
様々な課題を議論

2022年度の改善事項

- 4K番組に関するリピート放送の考え方の合意
- 素材の外部への提供についての考え方の合意
- 番組制作会社との取引基準の改定

後援

- 「ATP賞テレビグランプリ」の後援、受賞式の放送
- NHKアナウンサーの司会での参加

衛星波の整理・削減後の NHKの考え方

視聴者のみなさまへの“還元”について

構造改革による支出削減に加えて、経営努力によって生み出した財政安定のための繰越金をもとに、下記のとおり受信料の値下げや視聴者のみなさまの将来負担の軽減につながる先行支出などを行います。

■受信料の値下げについて

➤ 2023年度を含む、中長期の収支見通しを踏まえ、受信料の値下げ等(受信料体系の見直し)を実施します。

- 還元(値下げ等)の方法 ※いずれも、2023年10月から実施します。

✓ 地上契約および衛星契約を以下のように値下げします。

(支払方法の多様化を踏まえた、継続振込等払いと口座・クレジット払いの料額の一本化を含みます)

種別	支払方法	月額(値下げ後)	月額(値下げ前)
地上契約	口座・クレジット	1,100円	1,225円
	継続振込等		1,275円
衛星契約	口座・クレジット	1,950円	2,170円
	継続振込等		2,220円

✓ 学生への免除を拡大します。

- 還元(値下げ等)の規模

✓ 値下げに際して充当する還元の原資…総額1,500億円を想定

※なお、受信料体系の見直しは、日本放送協会放送受信規約、日本放送協会放送受信料免除基準の総務大臣認可、および各年度における予算の国会承認など、所要の手続きを経て決定され実施します。

■視聴者のみなさまの将来負担の軽減につながる先行支出等について

➤ ネットワークコスト削減等、視聴者の将来負担の軽減につながる先行支出(「3.あまねく伝える」関連)*

✓ 民間放送事業者との放送ネットワークの効率的運用、ソフトウェア化対応研究等、改正放送法の協力努力義務に係る支出…総額600億円(2023年度は調査費等を計上)

➤ 日本のコンテンツ産業全体の視点から、公共的コンテンツの創造・展開の強化に係る支出*

(「1.安全・安心を支える」関連)…総額100億円(2023年度は調査費等を計上)

➤ 災害時等の持続可能性を担保する、財政安定のための繰越金…少なくとも500億円程度必要

*改正放送法(第73条の2第5項)にもとづき、次期中期経営計画期間において「支出の予想額」に充当される想定です。なお、これらの区分については、別途定められる総務省令により、改められることがあります。

計画期間中の収支見通し

収支見通し

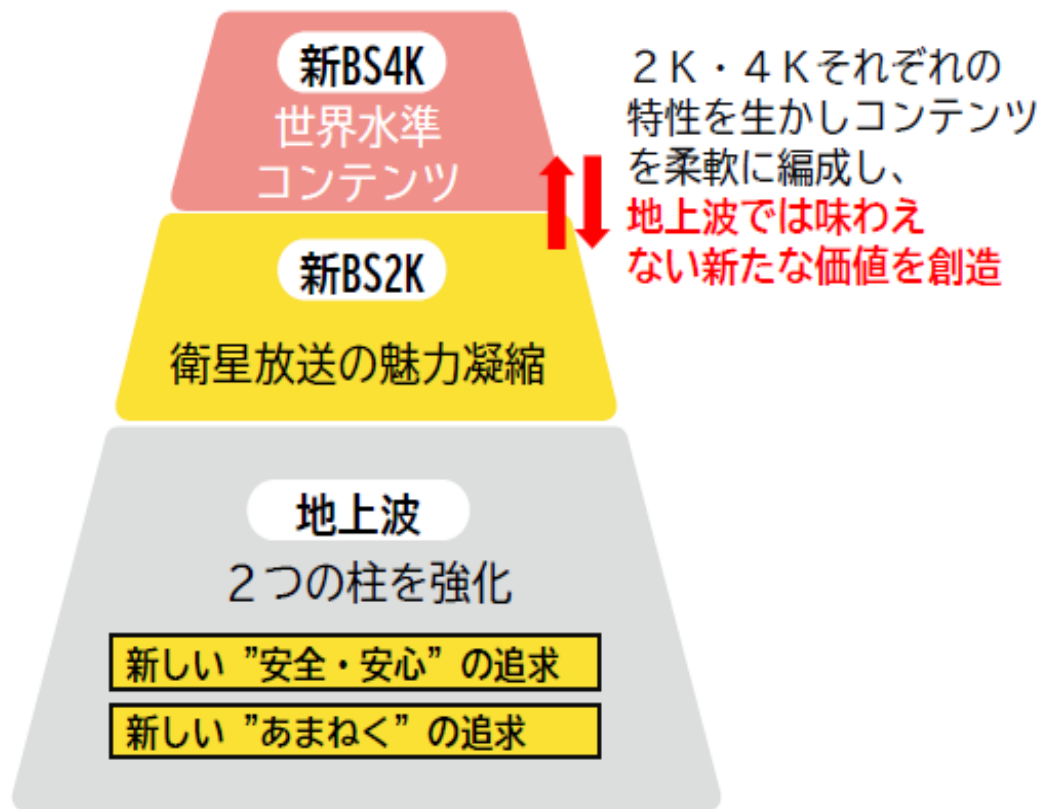
- 2023年10月からの受信料の値下げ等により、受信料収入約460億円の減収を想定しています。
- 事業収支差金のマイナスは、値下げのために確保した還元の原資から充当することで解消します。
- 受信料値下げの継続を可能にするため、支出規模を段階的に縮減する間、還元の原資を活用します。

2023年度の収支のみ変更

区分	2020年度 予算	2021年度		2022年度		2023年度	
		増減		増減		増減	
事業収入	7,204	6,900	△304	6,890	△10	6,440	△450
うち受信料収入	6,974	6,714	△260	6,700	△14	6,240	△460
事業支出	7,354	7,130	△224	6,890	△240	6,720	△170
事業収支差金	△149	△230	△80	0	230	△280	△280
還元の原資を充当						280	+280
還元の原資残(後年度用)						1,220	

出典:「NHK経営計画(2021-2023)の修正について」より

(2023年1月修正) 衛星波削減を踏まえた
放送サービスのトータルプラン



サービスプラン

主な番組のジャンル

新BS4K

世界に通用する多彩な
コンテンツ・高精細クオ
リティを提供

- 自然・紀行番組
- ドラマ
- 音楽番組
- 教養エンターテインメント番組
- 4Kリマスター番組 など

新BS2K

BS1・BSプレミアムの
コンテンツを中心に、
衛星放送の魅力凝縮
し、ライブ感を重視した
機動的な編成

- 国内ニュース
- 国際ニュース・報道番組
- 海外ドキュメンタリー
- プロスポーツ
- アマチュアスポーツ など
- 災害・事件事故等の場合、総合テレビと
同時に緊急ニュースを放送
- 2Kテレビで衛星放送をご覧になる
視聴者に向け、新BS4Kの番組も放送

大規模災害時の
対応

地震・津波等の大規模災害が発生し、東京の放送センターから放送ができなくなった場合は
大阪放送局から新BS2Kに送信し全国の放送局が受信して放送する

限られた経営資源を“4K強化”に

BS4Kへの資源配分を維持

全国放送番組費（衛星放送）の内訳

(億円)

区分	2022年度 予算	2023年度 予算	増減額	率・%	備考
衛星放送	625.5	599.1	△ 26.4	△ 4.2	
B S 1	283.6	271.0	△ 12.5	△ 4.4	
B S プレミアム	230.8	216.9	△ 13.8	△ 6.0	
B S 4 K	95.4	96.0	0.5	0.6	番組のジャンル管理等による適切な資源配分と合理的なコストでの提供による減等
B S 8 K	15.6	15.1	△ 0.5	△ 3.3	

2023年12月にスタートする「新BS2K（仮称）」と「新BS4K（仮称）」の番組も、上記の「BS1」「BSプレミアム」「BS4K」の予算で制作します

出典：NHK「収支予算と事業計画（令和5年度）」

再編周知活動



街頭広告

人気コンテンツを4Kに集中編成



第73回NHK紅白歌合戦 2022年12月31日 19:20

今年の紅白は「シェア紅白」。紅白をテレビやラジオで楽しみながらスマホやPCでシェアして歌い、感じた事をつぶやいてシェア！写真や動画をシェア！LOVE&PEACEをシェア！みんなシェアして紅白を思いっきり楽しんで下さい！



正月時代劇『いちげき』 2023年1月3日 21:00

時は幕末、薩摩藩が討幕目的で秘蔵に結成した御用盗に反対するために、徳川勢力によって集められた武芸者集団「一筆必殺隊」。人気を得た薩摩藩作をベースに宮藤官九郎さんが脚色し、歴史に名を残した「盗人」たちではなく、名も無き「盗聖」を主人公とした幕末の物語を、魅力あふれる出演者たちが生き生きと演じます。



広報イベントも開催

放送時間を4月から**21時間** 12月からは**24時間**に拡大

出典:総務省「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会・公共放送WG」(第3回)NHK資料

①
「情報空間の参照点」
への貢献

まとめ～情報空間全体への貢献の視点から

情報空間の参照点への貢献の要請

テレビ層・非テレビ層を問わず、拡大する情報空間に対する課題認識は幅広い
(とくに、修正経営計画で示した“安全・安心”“あまねく伝える”を優先して社会全体に貢献すること)

伝統メディアとともに、公共放送が対応してきたものであり、非テレビ層に向けてのサービスには一定の期待・評価が確認されている(社会実証)

信頼できる多元性確保への貢献の要請

新聞、民放、NHKという伝統メディアに対する期待、信頼は、ネットヘビー層でも大きく、これを維持して情報空間の課題に対処していくことが、視聴者・国民に求められていると考えられる

②
「信頼できる多元性確保」
への貢献

上記を踏まえた、NHKのインターネット活用業務の範囲・規律・負担の考え方

上記2点を踏まえ、「放送」と同様の“公共性”の効用をもたらす業務範囲、情報空間全体を踏まえた、核となる“公共性”の範囲で、NHKのインターネット活用業務の範囲・規律・負担を考えるのが適切なのではないか

他方、規律については、報道・言論機関であり、そもそも価値の期待の源であることを踏まえ、「独立性」等を担保したうえで検討すべきであり、公共放送のインターネット活用で先行する欧州の事例を参照することを考えてもよいのではないか

上記を踏まえたご検討が進み、NHKが視聴者・国民の期待に応えられることを期待

80

公共放送WGでの議論を十分にふまえ、次の中期経営計画において
コンテンツ産業の発展への貢献のあり方について具体化していく

1月に修正したNHK中期経営計画で「コンテンツ産業への貢献」を明記

強化する重点項目

1. 安全・安心を支える

災害のみならず、安全保障、感染症、地域課題など、暮らしの安全を支える「信頼できる情報」の発信を強化します。

- 国際情勢や地域環境の変化を踏まえ、信頼できる情報の担い手として、健全な情報空間の維持に貢献します。
 - ・フェイクニュースが蔓延する時代に対応し、事実を見極めるための情報の取材・制作機能を強化します。
 - ・取材に裏打ちされた信頼性の高い報道を維持するため、ジャーナリズム人材の育成に注力します。
 - ・専門プロジェクトを設けるなど、災害、科学、安全保障といった社会が要請する分野の強化に取り組みます。
- 信頼されるメディアとしてコンテンツ強化に取り組むとともに、国内で流通するコンテンツの信頼性向上にも貢献します。
 - ・学習形態の多様化に応じた教育コンテンツの充実など、質の高いコンテンツに経営資源を集中します。
 - ・放送通信融合の時代における日本のコンテンツ産業の信頼性向上に、業界と協力しつつ取り組みます。

繰越金を活用した還元

繰越金を活用したその他の還元

視聴者のみなさまの将来的な負担軽減に向けて
先行投資に取り組みます

視聴者のみなさまに
追加負担を強いることなく
いかなる事態でも
信頼できる情報を届け
続けることができる存在へ
※余剰が出れば
「還元目的積立金」へ
(改正放送法で明記)

- 民間放送事業者と連携し
放送ネットワークインフラ維持コストを低減
※次頁参照
- 設備投資コスト削減に向けた投資
- 情報空間の健全性担保のための投資
- 日本のコンテンツ業界の人材育成

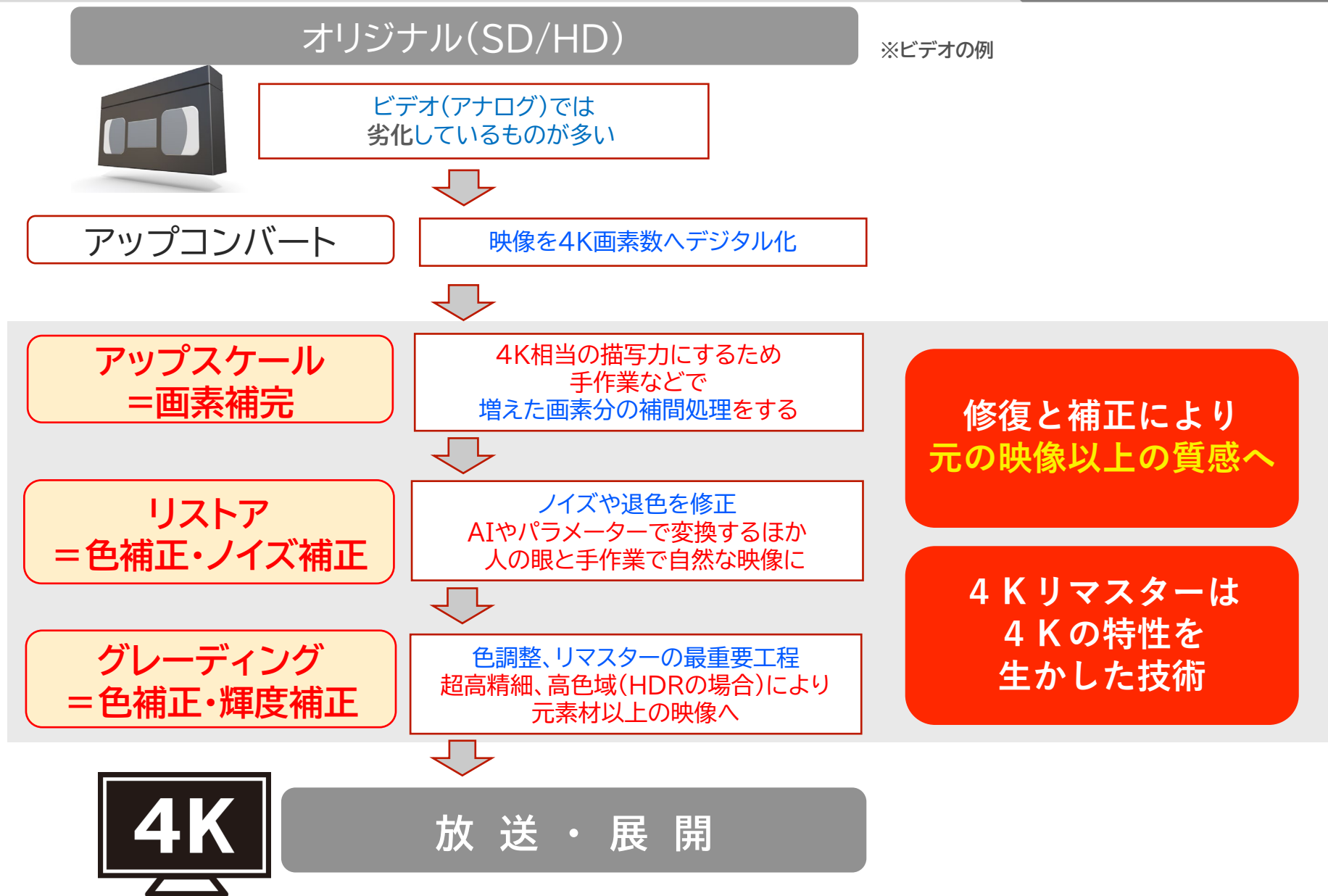
還元規模（想定※） 700億円程度

■放送通信融合時代における
日本のコンテンツ産業の信頼性向上に
業界と協力しつつ取り組みます

■情報空間の健全性確保のための投資
■日本のコンテンツ業界の人材育成

- NHKはこれまで、外部制作事業者と協力することにより、多様で質の高いコンテンツを制作し、日本のコンテンツ産業の振興に貢献してきた。外部制作事業者はNHKのパートナーであり、衛星波の整理・削減後もこの基本的な考え方を堅持する。
- NHKは三位一体の改革を進め、今年度、受信料の値下げと衛星波の整理・削減を実施する。今後、受信料の長期的な減収傾向が予測されるなか、経営計画に掲げた「スリムで強靱な」体制を構築していくことが、一層求められている。
- 一方で、放送と通信の融合時代を迎え、日本のコンテンツ産業では、質が高く競争力のあるコンテンツの制作・放送とともに、様々な形で流通・展開させていくことが求められている。こうした状況を踏まえ、NHKは修正経営計画において、日本のコンテンツ産業の信頼性向上に協力して取り組むことや、コンテンツ業界の人材育成などに取り組むことを明記しているところである。
- 衛星波の整理・削減後においても、衛星放送全体で外部制作事業者と連携し、信頼できるコンテンツを視聴者に届け、引き続き、衛星放送の普及に取り組んでいく。これまで実施してきた「企画競争」による制作機会の確保を行うほか、「4Kリマスター」による高付加価値化等も含め4Kコンテンツの強化を図っていく。

(参考)



2023年12月1日にスタートするNHKの新しい衛星放送のチャンネル名が決定しました。

■ チャンネル名とロゴ

「NHK BS」のロゴはBS1の色を、「プレミアム4K」のロゴはBSプレミアムの色をそれぞれ受け継いでいます。これまで親しんでいた衛星放送の魅力は継承しつつ、さらに多くの方にも親しんでいただけるチャンネルを目指します。



- **BS1とBSプレミアムの魅力を凝縮する「NHK BS」**
NHKの衛星放送としてまず、このチャンネルを思い出してもらえようストレートな名前にしました。
- **現在のBS4Kを進化させる「NHK BSプレミアム4K」**
4K技術を生かし、これまで以上に見応えのある、プレミアムな4K番組をお届けしていきます。

コンテンツ産業の発展に向けた
NHKの取り組み

【終】